

仏説觀無量壽經

その時王舎大城に一りの太子あり阿闍  
世と名づく調達悪友の教えに隨順して  
父王頻婆娑羅を収執し幽閉して七重の  
室内に置けり諸もろの群臣を制して一  
りも往くことを得ざらしむ国の大夫人  
を韋提希と名づく 大王を恭敬して澡  
浴清淨にして酥蜜をもつて麩に和して  
もつてその身に塗り諸もろの瓔珞の中  
に蒲桃の漿を盛れてひそかにもつて王  
に上るその時大王麩を食し漿を飲み水  
を求めて口を漱ぐ口を漱ぎおわつて合  
掌恭敬して耆闍崛山に向かつて遙かに  
世尊を礼してこの言を作さく大目犍連  
はこれ吾が親友なり願わくは慈悲を興  
して我れに八戒を授けしめたまえ 時  
に目犍連鷹隼の飛ぶがごとく疾く王の  
所に至る日日かくのごとく王に八戒を  
授く

為

令和 年 月 日

淨写